



笠懸小学校は今年も思いやりも日本一を目指します！

やさしく  
たたく  
しまし  
やく



笠懸小学校

学校だより No.17 2022.9.26

<https://midori-school.ed.jp/kasasho/>

## 令和4年全国学力学習状況調査結果について

全国学力学習状況調査は、4月に6年生を対象に国語、算数、理科の3教科と、質問紙による調査が行われました。結果については、学校の状況を分析した上で保護者の皆様に公開することが、全国学テの目的の一つになっています。成果や課題を学校全体の特徴としてとらえ、すべての学年での指導に生かしていきたいと思えます。文字ばかりの号となって恐縮ですが、一読いただけると幸いです。

### 1 学力調査の結果

各教科の結果	結果の分析
<p><b>【国語】</b></p> <p>全国や県の結果と同程度でした。</p> <p>13問中10問を上回った児童は全国や県よりも多く、7問以下の児童も全国や県よりも多い結果であり、国語については、学力の散らばりが比較的大きいことが分かりました。</p>	<p>得意な分野は、「文を書くこと」と「漢字やことばの意味などの言葉に関すること」です。苦手な分野は、「話すことや聞くこと」と「読むこと」でした。</p> <p>成果については、これまでの授業で、自分の考えを明確にもてるようにするとともに、考えたことを文章に表す学習に力を注いだことや、丁寧なノート指導やタブレットを活用したドリル学習に取り組んだことが挙げられます。</p> <p>課題としては、物語の人物関係や心情が複雑になると、正確に読み取れない場合があるので、言葉や描写を手がかりに文章を読む学習に取り組んだり、論点や立場を明確にした話し合い活動に取り組んだりしていきます。</p>
<p><b>【算数】</b></p> <p>全国の結果を若干下回り、県の結果と同程度でした。</p> <p>13問中、全問正解だった児童は全国や県よりも多かったものの、全国や県の平均をやや下回る児童も多かったため、今回のような結果になりました。算数についても国語と同様に学力の散らばりが比較的大きいことが分かりました。</p>	<p>得意な分野は「数と計算」でした。苦手な分野は、「図形」「変化と関係」「データの活用」でした。</p> <p>成果については、「繰り返し計算ドリル」等に粘り強く取り組めた結果であると考えられます。</p> <p>課題としては、「変化と関係」の分野で、問題文から割合やもとにする量、比べる量を読み取り、立式すること、「データの活用」の分野で表やグラフを読み取ること、「図形」の分野では図形を描くことが挙げられます。今後は算数の学習が日常生活と密接に関係していることを自覚できる問題や活動に取り組んだり、特に作図や表やグラフの読み取りについては算数だけでなく、他教科の中でも意識して取り組んだりしていきます。</p>
<p><b>【理科】</b></p> <p>全国の結果と同程度で、県の結果を若干上回りました。</p> <p>15問中全問正解だった児童は全国や県よりも1割ほど多いという立派な結果でした。その一方で、理科を特に苦手としている児童が全国や県よりも多いことが分かりました。</p>	<p>得意な分野は「エネルギー」、「粒子」、「地球」でした。</p> <p>成果としては、本校では教科担当制を実施していますが、教科の専門性を生かした実験・観察の活動が充実していることが挙げられると考えられます。日常生活を見ても動植物に興味をもってよく観察したり、知識として身に付いたりしている児童が多いと感じます。興味や関心を高める指導が大切なことが改めて実感できる結果となりました。</p> <p>課題としては、算数と同様に表やグラフから必要な情報を読み取ることが挙げられます。笠小の課題として、全教科で重点的に取り組んでいきます。</p>

### 1 質問紙の結果より(特徴を3つずつ挙げます)

全国や県を上回っているもの	全国や県を下回っているもの
授業でPCやタブレットなどを活用している(+25%)	読書が好き(-24%)
人の役に立つ人になりたい(+10%)	自分と異なる意見について考えるのは楽しい(-15%)
友だちと協力するのは楽しい(+9%)	不安なことはいつでも大人に相談できる(-10%)

## 令和4年度第1回学校評価の結果②「確かな学力」について

前回は引き続き、令和4年度第1回学校評価の結果をお知らせします。今号では、「確かな学力」についての結果です。確かな学力を育成することは、学校教育の根幹であり、楽しい学校生活を送れるようにするためには、「勉強が分かる・楽しい」ことが必要な条件だと考えます。また、子どもたちが生涯に渡って自分らしく生きていくための基礎がしっかりと身に付くよう努力を継続していきます。表面の全国学力学習状況調査の結果と併せてご覧いただければと思います。

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	自己評価	改善策
Ⅱ 確かな学力	3 お子さんは、学校の授業がわかっていると思いますか。	「授業がわかる」と答える子どもが85%以上である。	○児童が活躍する授業 ○教科担当制を生かした質の高い授業 ○互いに授業を見せ合う授業 改善研修 ○子どもたちの実態を踏まえた授業改善	「おおむね満足」以上の児童が 94.3% 「B」  「おおむね満足」以上の保護者が 84.2% 「C」	主体的で楽しい授業が実践できるよう研修に努めます。特に考えを表現することを充実させ、思考力を伸ばします。また、学力向上コーディネーターを中心に、毎月の実践目標に向かって、教職員全員が授業改善を進めながら、自らの実践を振り返られるようにします。結果として、その児童と保護者の受けとめの差が縮まるように※1)します。
	4a お子さんは、家庭で学習を、一日に学年×10分以上取り組んでいますか。	「家庭学習や読書を、(週平均して)1日あたり学年×10分以上最低30分以上行っている」と答える児童が80%以上である。	○家庭学習や読書の重要性を啓発活動 ○実生活との関連を図った興味関心を高める授業や家庭学習の実施	「おおむね満足」以上の児童が 87.9% 「B」  「おおむね満足」以上の保護者が 84.4% 「B」	全校で自主勉強を推奨し、児童の実態や興味に沿った家庭学習を、タブレットを活用しながら行えるようにして学習への興味関心を高めます。  読書については、週に1回の朝読書を継続します。また、学級文庫の本だけでなく、分離で児童数が減少したメリットを生かし、図書室や学校が保有している本の有効活用を図ります。
	4b お子さんは、家庭学習でICT機器を使うことがありますか。	「ICT機器に慣れ親しんでいる」と答える児童が80%以上である。	○ICT活用促進プロジェクト(モデル校事業)の実践研究を推進し、ICT機器の効果的な活用を図る。	「おおむね満足」以上の児童が 87.9% 「B」  「おおむね満足」以上の保護者が 84.4% 「B」	授業ではICT機器が活用されていても、家庭学習での活用は学年差や個人差が大きく、十分ではないことが分かりました。家庭学習の課題として、ドリルパークやeライブラリを用いたり、自主学習で授業内容をふり返るために端末に保存されているものを活用したりするなどの工夫をして、活用推進をより一層推進します。

※1)「授業が分かる」に対する児童と保護者の受け止めの差が10ポイント程度ありました。この要因として、児童が「分かったつもり」であったり「分かったが忘れてしまった」であったりすることが考えられます。授業及び家庭学習を楽しく充実させることにより、確実な定着に結びつけていきたいと考えます。